

付録一 6 詳細調査報告書様式

—目次—

詳細調査報告書様式（その 1）	詳細調査状況写真
詳細調査報告書様式（その 2-1）	鋼塗膜調査（機能水準）
詳細調査報告書様式（その 2-2）	鋼塗膜調査（素地調整判定）
詳細調査報告書様式（その 2-3）	鋼塗膜調査（塗膜状況写真）
詳細調査報告書様式（その 3-1）	鋼製パイルベント橋脚調査（損傷展開図）
詳細調査報告書様式（その 3-2）	鋼製パイルベント橋脚調査（肉厚測定記録）
詳細調査報告書様式（その 4-1）	RC パイルベント橋脚調査（損傷展開図）
詳細調査報告書様式（その 5-1）	洗掘の状態写真
詳細調査報告書様式（その 5-2）	洗掘の計測結果
詳細調査報告書様式（その 6-1）	ケーブル詳細調査（腐食調査 渦流探傷法 1/2～2/2）
詳細調査報告書様式（その 6-2）	ケーブル詳細調査（腐食調査 開封調査）
詳細調査報告書様式（その 6-3）	ケーブル詳細調査（張力調査）
詳細調査報告書様式（その 7-1）	鋼床版疲労調査（調査位置図）
詳細調査報告書様式（その 7-2）	鋼床版疲労調査（調査結果）
詳細調査報告書様式（その 8-1）	鋼製橋脚隅角部疲労調査（調査位置図）
詳細調査報告書様式（その 8-2）	鋼製橋脚隅角部疲労調査（調査結果）
詳細調査報告書様式（その 9-1）	コンクリート健全性調査（調査位置図）
詳細調査報告書様式（その 9-2）	コンクリート健全性調査（中性化深さ試験結果）
詳細調査報告書様式（その 9-3）	圧縮強度調査（コア法）
詳細調査報告書様式（その 9-4）	圧縮強度調査（反発硬度法）
詳細調査報告書様式（その 10-1）	塩害調査（塩化物イオン量の計測状況写真）
詳細調査報告書様式（その 10-2）	塩害調査（塩化物イオン量の計測結果）
詳細調査報告書様式（その 11-1）	アルカリ骨材反応調査（調査位置図）
詳細調査報告書様式（その 11-2）	アルカリ骨材反応調査（調査結果）





詳細調査報告書様式(その1)
 詳細調査状況写真

起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
	経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

現地確認年月日		橋梁検査員	
---------	--	-------	--

状況写真	写真番号		径間番号		写真番号		径間番号		写真番号		径間番号	
	メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)			
	写真番号		径間番号		写真番号		径間番号		写真番号		径間番号	
	メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)			

種別	塗装仕様区分	部位	塗装系	素地調整程度			
				さび		塗膜異常(われ・ふくれ・はがれ・白亜化等)	
				さび 状況写真	さび面積区分	塗膜異常 状況写真	塗膜異常面積区分
中央部	外面系	外桁	[Yellow]	 <p>さびの写真例</p> <p>※さびの発生範囲や状況が分かる全景写真を撮影のこと。</p>	[Green]	 <p>はがれの写真例</p> <p>※塗膜異常の発生範囲や状況が分かる全景写真を撮影のこと。</p>	[Green]
		内桁					
	内面系	箱桁	[Yellow]				
桁端部	外面系	外桁	[Yellow]				
		内桁	[Yellow]				
	内面系						
鋼床版			[Yellow]	 <p>※さびの発生範囲や状況が分かる全景写真を撮影のこと。</p>	[Green]	 <p>※塗膜異常の発生範囲や状況が分かる全景写真を撮影のこと。</p>	[Green]

素地調整程度の判定表

【素地調整程度の判定方法】
 ・素地調整程度は、下表を目安に判定する。
 ・さび面積区分あるいは塗膜異常面積区分の悪い方を評価して、判定すること。

素地調整程度	さび面積	塗膜異常面積 (われ・ふくれ・はがれ・白亜化等)
1種	-	-
2種	30%以上 点さびが進行し、板状に近い状態・こぶ状さび	-
3種A	15~30% 点さびがかなり点在	30%以上
3種B	5~15% 点さびが少し点在	15~30%
3種C	5%以下 点さびがほんの少し点在	5~15%
4種	発錆はないが塗膜にはがれ・われ・ふくれ等が少し発生	5%以下

鋼道路橋塗装・防食便覧 社団法人 日本道路協会 H17.12

表-Ⅱ.7.10 素地調整程度と作業内容

詳細調査報告書様式(その2-3)
鋼塗膜調査(塗膜状況写真)

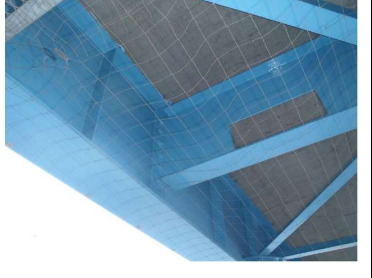
起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
	経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

全景	径間	橋面	径間	橋梁下面	径間	橋名板	径間	塗歴板	径間
----	----	----	----	------	----	-----	----	-----	----



写真番号	1	径間	写真番号	2	径間	写真番号	3	径間	写真番号	4	径間	写真番号	5	径間
------	---	----	------	---	----	------	---	----	------	---	----	------	---	----



写真番号	6	径間	写真番号	7	径間	写真番号	8	径間	写真番号	9	径間	写真番号	10	径間
------	---	----	------	---	----	------	---	----	------	---	----	------	----	----



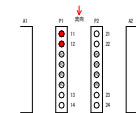
備考
(記載例)
 ・部分的な錆が確認されるが、局所的なものであったため、評価3とした。
 ・塗膜のはがれは確認されなかったため、評価3とした。
 ・局所的に白亜化が確認されるが、非常に軽微であり、評価3とした。
 ・塗膜われは確認されなかったため、評価3とした。
 ・塗膜のふくれは確認されなかったため、評価3とした。

詳細調査報告書様式(その3-1) 鋼製パイルベント橋脚調査(損傷展開図)	径間番号	起点側	緯度	終点側	緯度	OBAS No.
			経度		経度	

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

調査年月日	調査員
-------	-----

調査概要													
初期肉厚 16 (mm)	測定箇所名												
	腐食量(mm)												
損傷評価	部材番号												
	損傷区分												

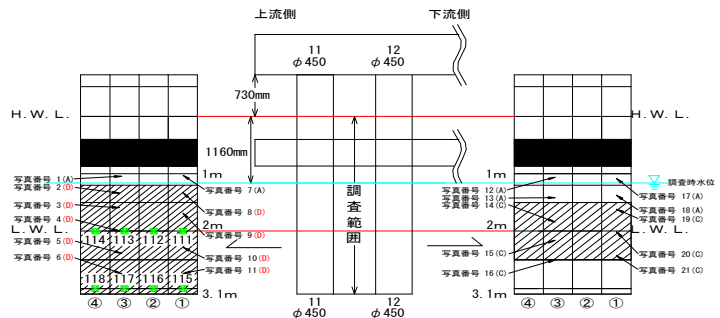


※肉厚測定箇所名:”パイルベント番号”+水面側下流側から若い番号とする。
展開図に肉厚測定箇所名を記入する。

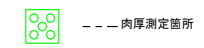
※パイルベント番号:A1側上流側を若い番号とする。

例)

損傷展開図



- 著しい損傷(開孔)
- 孔食
- 面の発錆(赤橙色)
- 点錆(赤橙色)
- 軽微な衝突痕



H.W.L.=OP+2.0m
L.W.L.=OP±0.0m

詳細調査報告書様式(その3-2) 鋼製パイルベント橋脚調査(肉厚測定記録)	径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

測定年月日		測定者	
-------	--	-----	--

調査構造物名	鋼製パイルベント	鋼材の種類		天気	
腐食期間(年数)		測定点		測定器	

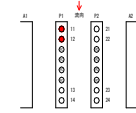
パイルベント 番号	測定深度	測定方向	初期肉厚	残存肉厚(測定値) T2(mm)				腐食量 (T1-T2)	腐食率	腐食速度		
	No.	m	No.	T1(mm)	1回	2回	3回	平均	mm	%	mm/Yr	
	OP± m	上下流 (測定点番号)										
								(平均値)				
	OP± m	上下流 (測定点番号)										
								(平均値)				
	OP± m	上下流 (測定点番号)										
							(平均値)					
OP± m	上下流 (測定点番号)											
							(平均値)					

詳細調査報告書様式(その4-1) RCパイルベント橋脚調査(損傷展開図)	径間番号	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	OBAS No.
---	------	-----	----	----	-----	----	----	----------

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

調査年月日	調査員
-------	-----

調査概要																																																							
初期肉厚 16 (mm)	測定箇所名														腐食量(mm)													損傷評価	部材番号														損傷区分												
	腐食量(mm)													損傷評価	部材番号														損傷区分																										
損傷評価	部材番号														損傷区分																																								
	損傷区分																																																						

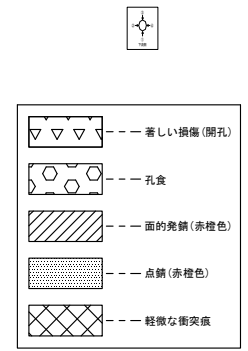
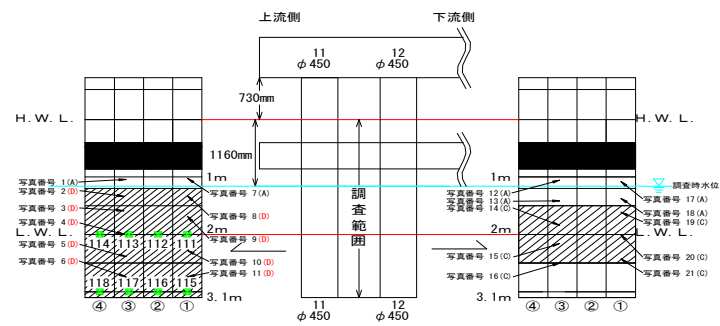


※肉厚測定箇所名:”パイルベント番号”+水面側下流側から若い番号とする。
展開図に肉厚測定箇所名を記入する。

※パイルベント番号:A1側上流側を若い番号とする。

例)

損傷展開図



H.W.L.=OP+2.0m
L.W.L.=OP±0.0m

詳細調査報告書様式(その5-1) 洗掘の状態写真	径間番号	起点側	緯度	終点側	緯度	OBAS No.
			経度			

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

備考	
----	--

現地確認年月日	橋梁検査員
---------	-------

洗掘の状態写真	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日
	部材名	部材番号	部材名	部材番号	部材名	部材番号
	損傷の種類	損傷程度	損傷の種類	損傷程度	損傷の種類	損傷程度
		前回損傷程度		前回損傷程度		前回損傷程度
		メモ		メモ		メモ
	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日
	部材名	部材番号	部材名	部材番号	部材名	部材番号
	損傷の種類	損傷程度	損傷の種類	損傷程度	損傷の種類	損傷程度
		前回損傷程度		前回損傷程度		前回損傷程度
		メモ		メモ		メモ

詳細調査報告書様式(その5-2) 洗掘の計測結果	径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

現地確認年月日		橋梁検査員	
---------	--	-------	--

洗掘の計測結果	※水中部の橋脚の基礎周辺地盤の高さの計測結果を記録

詳細調査報告書様式(その6-1) ケーブル詳細調査(腐食調査 渦流探傷法1/2)	径間番号	起点側 緯度	緯度	起点側 経度	経度	OBAS No.
---	------	-----------	----	-----------	----	----------

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

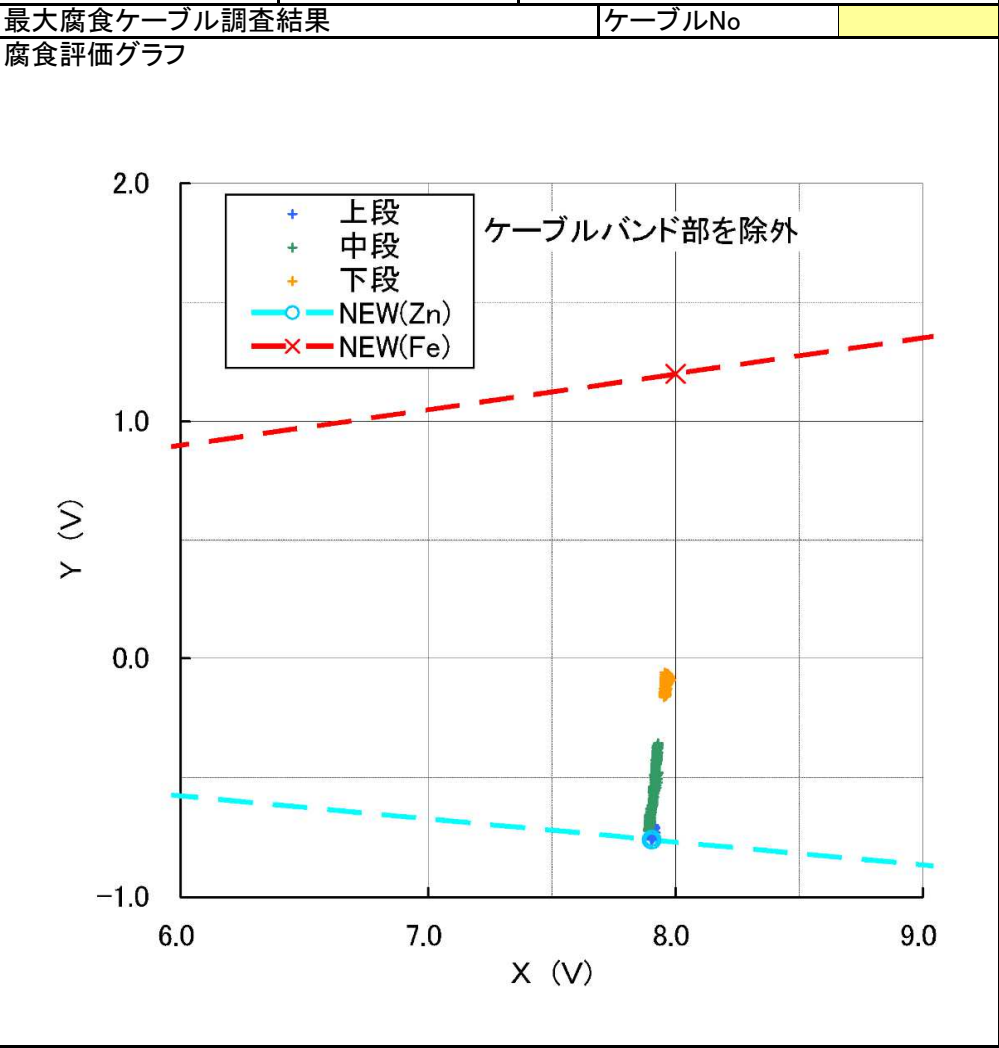
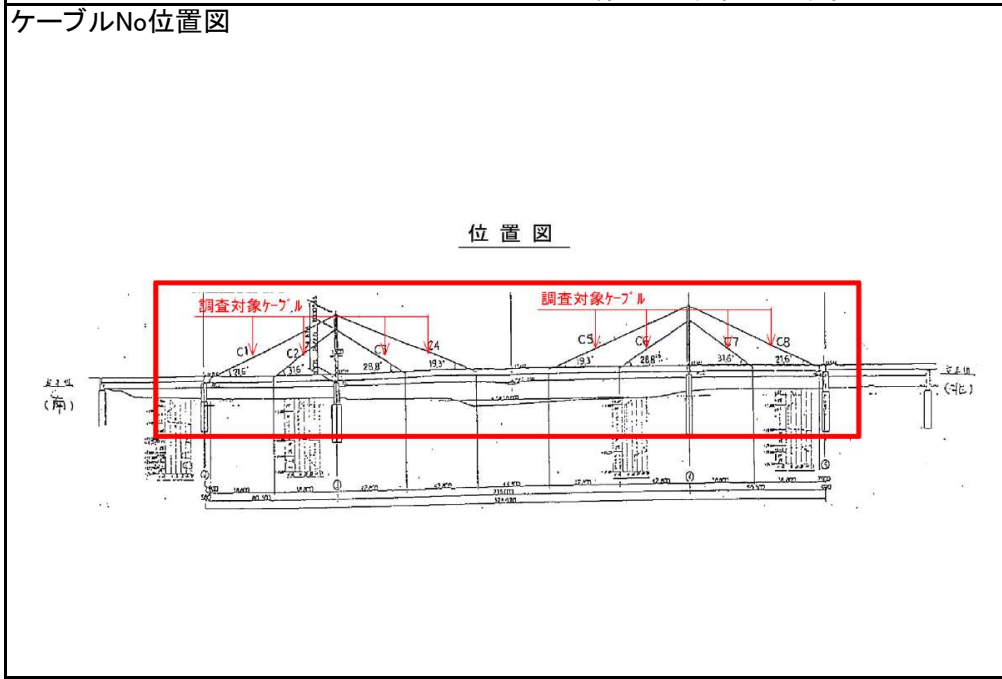
点検年月日	点検者名
-------	------

調査概要	最大腐食ケーブル調査結果	ケーブルNo
------	--------------	--------

調査結果	腐食評価グラフ
------	---------

開封または全磁束法要否判定	要									
ケーブルNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
腐食評価 θ_i										
ケーブルNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
腐食評価 θ_i										
最大腐食ケーブルNo	最大腐食位置								m	

※下端からの位置で示す。



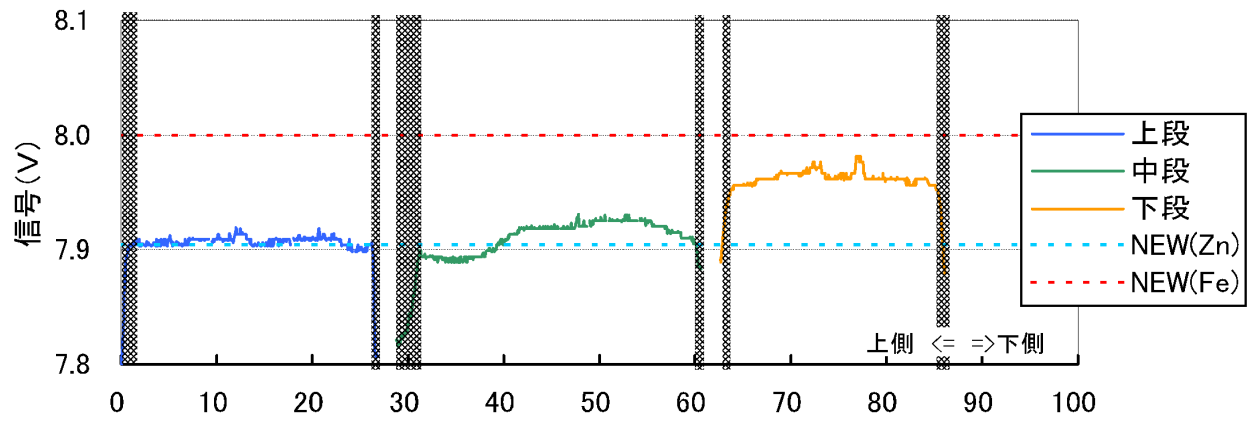
詳細調査報告書様式(その6-1) ケーブル詳細調査(腐食調査 渦流探傷法2/2)	径間番号	起点側	緯度		起点側	緯度		OBAS No.
			経度			経度		

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

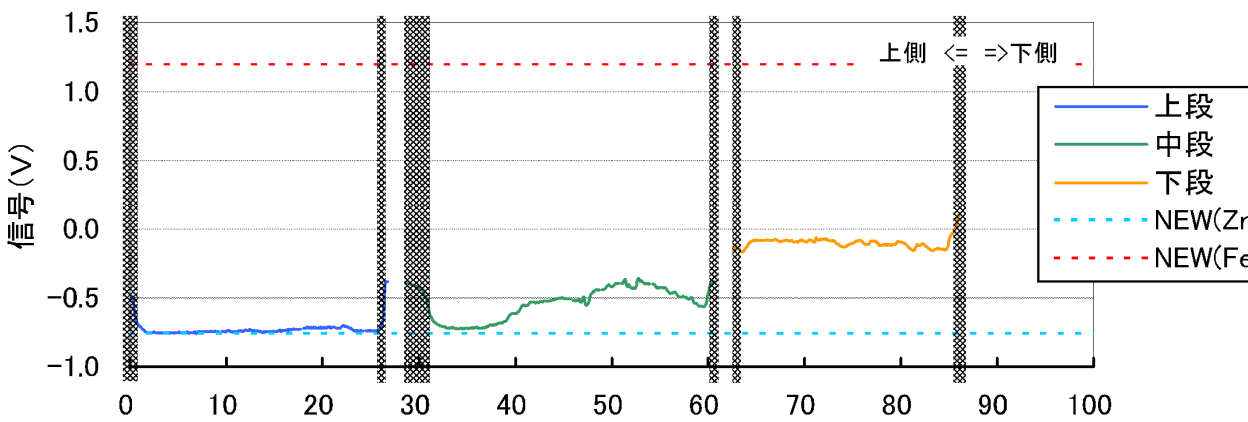
点検年月日		点検者名	
-------	--	------	--

電圧変化グラフ

[V-T(X軸)]



[V-T(Y軸)]



詳細調査報告書様式(その6-2) ケーブル詳細調査 (腐食調査 開封調査)	径間番号	起点側	緯度	経度	起点側	緯度	経度	OBAS No.
--	------	-----	----	----	-----	----	----	----------

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

点検年月日	点検者名
-------	------

調査概要	
------	--

調査結果			
ケーブルNo		調査位置	
腐食量(%)		腐食の状態	
腐食評価	A	腐食深さ(何層目)	
		断面欠損の有無	

腐食量判定シート	本数	基準腐食量	腐食量
腐食なし	9999	0.0%	0.0%
白錆	0	0.3%	0.0%
赤錆点在	0	1.1%	0.0%
赤錆1/2面	0	2.9%	0.0%
赤錆全面,孔食有り	0	4.7%	0.0%
断線有り	0	100.0%	0.0%
合計	9999	-	0.0%

調査写真



上面 素線間に溝あり ケレン前



錆が目立つ箇所



ポリエチレンシートを固定していた箇所



孔食あり (ケレン後)



孔食あり (ケレン後)



素線径計測



内層素線確認 (上面ｸﾞﾙﾞ割り)



内層素線確認 (下面ｸﾞﾙﾞ割り)

詳細調査報告書様式 (その7-1) 鋼床版疲労調査 (調査位置図)	径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

		現地確認年月日		橋梁検査員	
--	--	---------	--	-------	--

調査径間	~	部材名		部材番号	
------	---	-----	--	------	--

調査位置図	
-------	--

その他	
-----	--

詳細調査報告書様式 (その7-2) 鋼床版疲労調査 (調査結果)	径間番号	起点側	緯度	終点側	緯度	OBAS No.
			経度		経度	

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

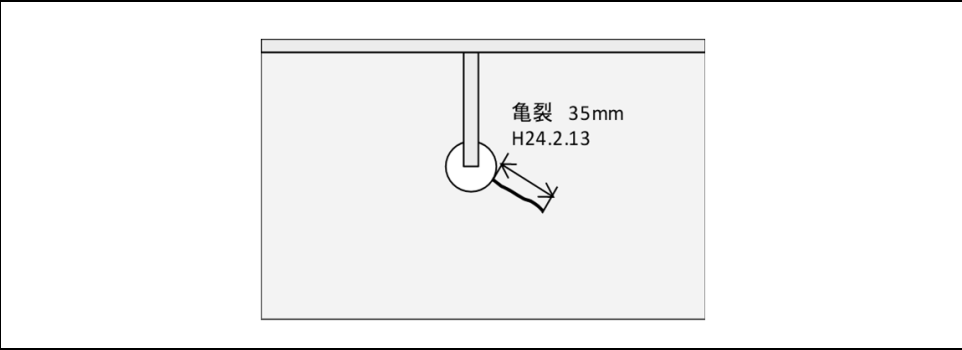
現地確認年月日	橋梁検査員
---------	-------

調査径間	~	部材名	部材番号
------	---	-----	------

損傷図 (※1)			

調査結果						探傷試験スケッチ図	
------	--	--	--	--	--	-----------	--

検査	結果					備考	
	番号①	番号②	番号③	番号④	番号⑤		
目視検査	塗膜割れ	無	無	無	無	無	
	局所錆	無	無	無	無	無	
渦流探傷試験 (有・無)		無	無	無	無	無	
磁粉探傷試験 (mm)					35		
判定		×					



評価	
----	--

※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。
 ※2 塗膜を除去した場合は、部分補修 (塗り替え) を実施する。

詳細調査報告書様式 (その8-1) 鋼製橋脚隅角部疲労調査 (調査位置図)	径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度	OBAS No.	
				経度		経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

	現地確認年月日		橋梁検査員	
--	---------	--	-------	--

調査径間	~	橋脚番号	
------	---	------	--

調査位置図 (※1)	
------------	--

その他	
-----	--

※1 隅角部の詳細図が無い場合は、溶接線の位置が分かるようにスケッチする。

詳細調査報告書様式 (その8-2) 鋼製橋脚隅角部疲労調査 (調査結果)	径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

	現地確認年月日		橋梁検査員	
--	---------	--	-------	--

調査径間	~	橋脚番号	
------	---	------	--

損傷図 (※1)		調査結果						
		検査	結果					備考
			隅角①	隅角②	隅角③	隅角④	隅角⑤	
目視 検査	塗膜われ・亀裂							
	局所錆							
渦流探傷試験 (有・無)		無	無	無	無	無		
磁粉探傷試験 (mm)								
探傷試験スケッチ図								
判定※3 (亀裂の有無)		無						

評価							
----	--	--	--	--	--	--	--

- ※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。
- ※2 塗膜を除去した場合は、部分補修 (塗り替え) を実施する。
- ※3 亀裂の有無を記載すること。

詳細調査報告書様式(その9-1) コンクリート健全性調査(調査位置図)		径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
					経度			経度			
フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所					
		調査年月日		橋梁検査員							
調査位置図											
その他											

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする(橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する)

詳細調査報告書様式(その9-2) コンクリート健全性調査(中性化深さ試験結果)		径間番号	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	OBAS No.			
フリガナ 橋梁名		路線名				管理者		工営所				
調査年月日			橋梁検査員									
調査位置詳細図(※1)					調査結果							
					調査径間		1		調査径間			
					調査部位		主桁		調査部位			
					測定結果(※2) (mm)	①	80.0		測定結果(※2) (mm)	①		
						②	97.0			②		
						③	95.0			③		
						平均	90.7			平均		
						かぶり深さ 測定結果 (mm)	①	30.0		かぶり深さ 測定結果 (mm)	①	
					平均	30.0		平均				
					環境条件 (通常:1、塩害:2)		1		環境条件 (通常:1、塩害:2)			
発錆限界深さ (※3)		20.0		発錆限界深さ (※3)								
竣工年		1987年		竣工年								
供用年数		#REF!		供用年数		#REF!						
判定(中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○)					×							
その他	中性化深さが著しく大きいため、コンクリートの品質低下が懸念される。											

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする(基本となる部材からの距離などを記入)。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。(平均値からの偏差%)=[(個々の値-平均値)/平均値]×100

※3 発錆限界深さは、通常環境(かぶり深さ-10mm)、塩害環境(かぶり深さ-25mm)とする。

詳細調査報告書様式(その9-3) 圧縮強度調査(コア法)	径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

調査年月日		橋梁検査員	
-------	--	-------	--

調査結果	試料 1	径間	供試体寸法		質量(kg)	1.214	
		1	供試体質量(g)	1214		見掛けの密度(kg/m ³)	2410
			供試体長さ(mm)	1	136.8	最大荷重fc'(N)	111000
				2	137	高さ補正值	1
		部位	平均	136.9	高さ補正後圧縮強度(N/mm ²)	30.1	
		主桁	供試体直径(mm)	1	68.4	静弾性係数(kN/mm ²)	24.5
				2	68.6	設計基準強度(N/mm ²)	14
				平均	68.5	判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	○
		試料 2	径間	供試体寸法		質量(kg)	
			供試体質量(g)			見掛けの密度(kg/m ³)	
			供試体長さ(mm)	1		最大荷重fc'(kN)	
				2		高さ補正值	
	部位		平均		高さ補正後圧縮強度(N/mm ²)		
			供試体直径(mm)	1		静弾性係数(kN/mm ²)	
				2		設計基準強度(N/mm ²)	
				平均		判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	
	試料 3		径間	供試体寸法		質量(kg)	
			供試体質量(g)			見掛けの密度(kg/m ³)	
			供試体長さ(mm)	1		最大荷重fc'(kN)	
				2		高さ補正值	
		部位	平均		高さ補正後圧縮強度(N/mm ²)		
		供試体直径(mm)	1		静弾性係数(kN/mm ²)		
			2		設計基準強度(N/mm ²)		
			平均		判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)		

詳細調査報告書様式(その9-4) 圧縮強度調査(反発硬度法)	径間番号	
-----------------------------------	------	--

起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
	経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名		管理者		工営所	
-------------	--	-----	--	-----	--	-----	--

調査年月日		橋梁検査員	
-------	--	-------	--

調査結果	調査径間	1				調査径間				
	調査部位	主桁				調査部位				
	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値		
	1	48	16	47	1		16			
	2	45	17	44	2		17			
	3	51	18	50	3		18			
	4	47	19	46	4		19			
	5	50	20	49	5		20			
	6	45	21	44	6		21			
	7	47	22	46	7		22			
	8	48	23	47	8		23			
	9	44	24	43	9		24			
	10	44	25	43	10		25			
	11	53	26	52	11		26			
	12	46	27	45	12		27			
	13	44	28	43	13		28			
	14	45	29	44	14		29			
	15	45	30	44	15		30			
	平均値	46.3				平均値				
	標準偏差σX	2.76				標準偏差σX				
	打撃角度α(°)	+90°				打撃角度α(°)				
	角度補正值ΔR	-3.1				角度補正值ΔR				
	補正反発硬度R	43.2				補正反発硬度R				
	補正前圧縮強度 F'(N/mm2)	37.0				補正前圧縮強度F'(N/mm2)				
	材齢係数K	0.63				材齢係数K				
	補正後圧縮強度 F(N/mm2)	23.3				補正後圧縮強度F(N/mm2)				
	設計基準強度 (N/mm2)	18				設計基準強度(N/mm2)				
	判定	○				判定				

詳細調査報告書様式(その10-1) 塩害調査(塩化物イオン量の計測状況写真)	径間番号	起点側	緯度	終点側	緯度	OBAS No.
		経度			経度	

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

備考	
----	--

現地確認年月日	橋梁検査員
---------	-------

塩化物イオン量の計測状況写真	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日
	部材名	部材番号	部材名	部材番号	部材名	部材番号
	メモ		メモ		メモ	
	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日	写真番号	撮影年月日
	部材名	部材番号	部材名	部材番号	部材名	部材番号
	メモ		メモ		メモ	

詳細調査報告書様式(その10-2) 塩害調査(塩化物イオン量の計測結果)	径間番号	起点側	緯度	終点側	緯度	OBAS No.
			経度		経度	

フリガナ 橋梁名	路線名	管理者	工営所
-------------	-----	-----	-----

現地確認年月日	橋梁検査員
---------	-------

工種	材料	部材種別		要素番号	測定位置	設計かぶり(mm)	かぶりの代表値(mm)	かぶりの測定値(mm)								実測によるかぶり(mm)	実測かぶり測定位置	かぶりの測定方法	
		名称	記号					測定値1	測定値2	測定値3	測定値4	測定値5	測定値6	測定値7	測定値8			記号	名称

工種	材料	部材種別		要素番号	測定位置	中性化深度(mm)	鉄筋位置での塩化物イオン量(kg/m3)	測定深さ(上段:始端mm,中段:終端mm)、測定値(下段:kg/m3)										塩化物イオン量試験方法		初期塩化物イオン量(kg/m3)	表面塩化物イオン量(kg/m3)	見掛けの拡散係数(cm2/年)	将来推定年	将来の鉄筋位置での塩化物イオン量(kg/m3)
		名称	記号					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	記号	名称					

位置図		注1) かぶりの代表値:測定結果の10%分位点(塩害に関する特定点検要領参照)を入力する。 注2) 測定位置:位置図に示した記号と対応させる。 注3) 実測によるかぶり、実測かぶり測定位置:電磁波反射法で、実測によりキャリブレーションを行った場合に記入する。 注4) 測定深さ:コンクリート部材表面からの深さ。
		備考

詳細調査報告書様式(その11-1) アルカリ骨材反応調査(調査位置図)		径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		OBAS No.	
	経度				経度						
フリガナ 橋梁名				路線名			管理者			工営所	
				調査年月日				橋梁検査員			
調査径間		~				部位					
調査位置図(※1)											
	調査箇所の詳細がわかるような記録をする。(基本となる部材からの距離などを記入)										
その他											

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。(基本となる部材からの距離などを記入)

詳細調査報告書様式(その11-2) アルカリ骨材反応調査(調査結果)		径間番号	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	OBAS No.														
フリガナ 橋梁名	路線名		管理者		工営所																		
調査径間	～	部材名		部材番号																			
調査結果(※1)	試料1	基長(mm)																					
		標準養生	解放膨張量(mm)										解放膨張率(%)										
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W
			残存膨張量(mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048
			残存膨張率(%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%
		全膨張量(mm)	0.048																				
		全膨張率(%)	0.048%																				
		残存膨張性	無																				
	試料2	基長(mm)																					
		標準養生	解放膨張量(mm)										解放膨張率(%)										
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W
			残存膨張量(mm)																				
			残存膨張率(%)																				
		全膨張量(mm)																					
		全膨張率(%)																					
		残存膨張性																					
	試料3	基長(mm)																					
		標準養生	解放膨張量(mm)										解放膨張率(%)										
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W
			残存膨張量(mm)																				
			残存膨張率(%)																				
		全膨張量(mm)																					
		全膨張率(%)																					
		残存膨張性																					
アルカリ骨材反応(※2)																							
判定	×																						
評価																							

※1 促進養生試験(JCI-DD2)またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。